



リスクマネジメント・システム開発

1. 当システムの目的・ねらい……Why

【目的】

- ① プロジェクト遂行上のリスクを的確に把握し、的確な対策を立案できるようにする。
- ② 大きなリスクは、プロジェクトの変換点で発生するので、変換点で的確にリスクが把握できるようにする。
- ③ 一旦把握したリスクを確実に追跡フォローし、損害が発生しないようにする。

【ねらい】

- ◆ プロジェクト遂行上において発生するリスクに対して適切な対応をしないことによる**損害を減らし、プロジェクト採算を改善**させる。

2. 当システムの内容・特徴……What

2.1 当リスクマネジメント手法の特徴

① リスクをチェックすべきタイミングを前面に出す。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 一般にリスクマネジメントは、プロジェクトの初期段階では真剣にリスクの洗い出し等を行うが、その後放置してリスクが顕在化してしまう場合がある。 ◆ リスクマネジメントは、プロジェクトのライフサイクル全般に亘って実施すべきものという前提で、ガイドを作成する。
② リスクの発生原因(事実)から最終的な損害(リスク)までの関連を示すリスク関連図を提示する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 事実から先ず発生するリスクを「直接リスク」と命名し、事実と直接リスクの関係を明示する。 ◆ 事実から直接リスクが発生すると、どういう経緯で最終的な損害に至るかを視覚的に捉えることができる(リスクの「見える化」である)。
③ リスクチェックリストは、紙で使用するのではなくデータで利用する前提で案件特性に対応したリスク評価の参考値を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リスクの発生率・影響度などについて、案件ごとの指定条件との組み合わせでその数値を提示する。
④ リスクを軽減するには、対策の実施が決め手となる。どのような対策が有効であるかを、リスク種類ごとにテンプレートとして提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ このテンプレートは次第にバージョンアップされることをお勧めします。

2.2 当リスクマネジメント手法の内容(=教育内容)

- ◆ リスクマップ
- ◆ リスク関連図
- ◆ 直接リスク・プロジェクト特性マトリクス
- ◆ 直接リスク・QCTHマトリクス
- ◆ 直接リスク・重大性係数マトリクス
- ◆ プロジェクト特性設定シート
- ◆ 最終成果要求度評価シート
- ◆ リスクチェックリスト(リスク把握ステップ別)
- ◆ リスク対策検討テンプレート
- ◆ リスク対策ワークシート
- ◆ リスク対応管理表
- ◆ リスク在庫管理表

3. 当システムの適用範囲……Where

(1) 対象案件

- ◆ 一般的なシステム開発案件を主対象とする。
- ◆ パッケージ利用開発、システム再構築を含む。

(2) 対象工程

- ◆ プロジェクトの受注検討時から終了までを対象とする。
- ◆ 営業段階との関連については、「引合いチェックリスト」の内容を引き継ぐことで、その連携性を確保する。

5. 当システムのご提供時期……When

- ① カスタマイズが必要ない場合は、直ちに納品可能です。
- ② カスタマイズをご希望の場合は、ご相談させていただきます。

4. 当システムの利用方法……How

(1) 研修教材としての利用

- ◆ 研修の教材として利用し、リスクマネジメントに対する認識・対応能力を高めていただく。

(2) 業務標準としての利用

- ◆ 利用状況の進展と当システムの強化内容を判断して、有効な部分から業務標準に位置づけていただく。

6. 当システムの開発者……Who

- ◆ 住商情報システム株式会社
- ◆ システム企画研修株式会社

7. 当システムのご提供料金……How Much

- ◆ 200万円から(ご利用企業の規模やカスタマイズ内容によります。ご相談ください)。